



SystemVue ベーシック

コース型番:

お客様先オンサイト:N3249D

SystemVue(エレクトロニック・システム・レベルデザイン用のシミュレーションツール)の操作、解析手順の基本を習得するコースです。

コース概要

SystemVue ベーシックコースでは、SystemVue の核となるデータ・フロー解析のシミュレーションを通して、ユーザー・インターフェースの概要、シミュレーションの設定方法、グラフなどの結果表示方法を学びます。

コースを通して学ぶもの

- ・SystemVue の基本操作(ユーザー・インターフェース概要、データ・フロー解析)
- ・Math Language の使用方法
- ・C++モデルの作成方法
- ・RF システム解析の方法

対象者

SystemVue を初めて使用する方
通信、信号処理解析を使用してシステムを設計される方

前提知識

Microsoft Windows の使用経験があること。
信号処理や通信方式に関して基本的な内容を理解していること。
プログラミング作成経験のあること。

コース期間

1 日間(基本操作のみ)~2 日間(全て)

コース構成

講義 40% / 実習 60%

提供方法

お客様先オンサイト
お客様のお時間や出張コストの節約のために多くのコースでお客様先でのご提供が可能です
詳細はお問い合わせください

コース内容詳細

・SystemVue の基本操作

SystemVue の基本操作方法を SystemVue の中心となるデータ・フロー解析コントローラを使用して説明します。

基本操作とは

-ソフトウェアの起動

-デザインの作成

パーツの設定方法、デザイン上で使用できるデータの種類等の説明をします。

-データ・フロー解析コントローラの設定

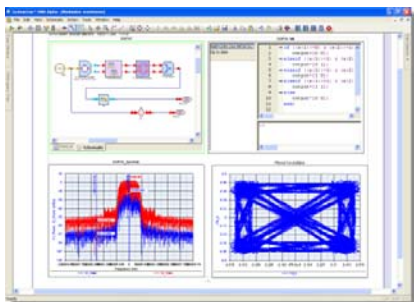
シミュレーションを実行する上で重要なサンプリングレートやデータの取得時間の設定などを行うコントローラの設定に関して説明します

-シミュレーションの実行

-結果の表示

表やグラフの表示方法に関して説明します。

また、実際にこれらの基本操作を簡単な例題(QPSK 変調信号の作成/デジタルフィルタの作成)を通して実習します。



・Math Language の使用方法

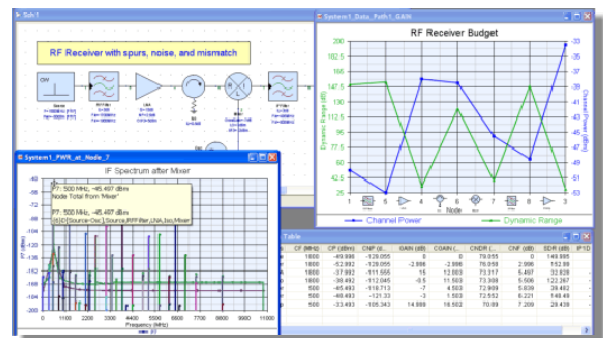
Math Language とは、SystemVue 内で用いることのできるプログラム・スクリプト言語で多くのビルドイン関数(sin, fft など数学関数やファイル操作関数など)が用意されています。この Math Language の使用方法に関して説明します。具体的には、Math Language を用いてユーザ独自のモデルを作成する方法を説明し、実際に簡単なモデルの作成を実習します。

・C++モデルの作成方法

SystemVue には、Microsoft Visual Studio を使用して C++ のデータフローデザインモデルを作成することができます。モデル作成方法では、モデルを作成するための設定、手続き方法を説明し、実際に簡単なモデルを作成します。また、作成したモデルを使用してシミュレーションの実行が行えることを実習します。本実習を行うためには、Microsoft 社の Visual studio express edition が必要となります。

・RF システム解析の方法

SystemVue には、ブロック・レベルの RF シミュレータである Spectrasys シミュレータ機能、WhatIF 周波数プランニング・ツールがあります。RF システム解析の方法では、これらの機能の使用方法を RF 送信機の作成を通じて習得します。



RF システム解析を行うには W1719 SystemVue RF System Design Kit が必要となります。

コースの開催日程と開催場所に関する最新情報は

www.agilent.co.jp/find/education

連絡先

お客様窓口

Phone: 0120-421-345 (9:00~19:00)

Fax: 0120-421-678 (24 時間受付)

E-mail: contact_japan@agilent.com